

「画期的長寿法 ー難病（癌も含む）の非侵襲・迅速診断法と安全で効果的治療法によるー」

Yoshiaki Omura, M.D., Sc.D., FACA, FICAE, FAAIM, FRSM

Director of Medical Research, Heart Disease Research Foundation; President, International College of Acupuncture and Electro-Therapeutics; Adjunct Professor, Department of Community and Preventative Medicine, New York Medical College

(Correspondence : Tel: (212) 781-6262; Fax: (212) 923-2279; Email: icaet@yahoo.com)

バイ・デジタルオーリングテスト (BDORT) の基本現象は、脳循環と手及び指の握力と病的圧痛に関する研究の最中に、脳循環と手の筋力が密接に関連していることが発見され、それをベースに 1970 年代に考案された診断法です。1981 年に最初の論文が発表されてから、*Acupuncture & Electro-Therapeutics Research, Int. Journal* に数多くの論文が掲載されている。BDORT には、次の 3 つの診断方法がある。

- ① 異常部診断法・・・この現象は体のどこに異常があってもその部分に軽く触れると頭の毛 1 本でふれても、筋力が低下して、触れられた人の親指ともう 1 本の選択された指で作ったオーリングが簡単に開き、その開く程度及びいくつのオーリングが開くかは、その病的異常の程度にほぼ比例している。臓器代表点を刺激することで、異常な箇所を調べることができる。
- ② 共鳴診断法・・・体内にあるものと同一の物質と同じ量の物質をレファレンス・コントロール・サブスタンス (RCS) として手に持ってテストを行うと強い共鳴現象が起こり、被検者の筋力が低下して、被験者の最も強い指で作ったオーリングも簡単に開いてしまうという同一物質間の共鳴現象を 1983 年頃発見した。この現象を応用し、がん・遺伝子・ウイルス・細菌・有害な重金属・神経伝達物質・ホルモン・薬物などの種類や量を推定し、その分布状態を体表に描くことができる。ウイルスや細菌の量が、定量ができるようになってからは、治療経過を追うことができるようになった。BDORT で疾患の推定をしてから、西洋医学的な CT, MRI, PET スキャン、レントゲン、腫瘍マーカー等の血液検査で確定診断をするので、効率よく診断できる。
- ③ 薬剤適合性試験・・・ある疾患に対し、適合する薬剤を最適投与量与えると、指筋力が強くなり、親指と小指もしくは薬指で作った弱いオーリングまでも、開かなくなる。これを応用して、その人の病状に適合する薬剤と最適な投与量、副作用をチェックできる。何種類もの薬を飲んでいる場合の薬効推測も可能。原因不明の難病に、どの抗生物質や薬剤が効くのかを調べることができるし、薬剤相互作用を調べることができるので、患者に的確にアドバイスができる。更に **Selective Drug Uptake Enhancement Method** (薬剤選択的取込法) の開発により、選択的に薬剤を病巣部に到達させることができるようになったことにより、治療効果があげられるようになった。

これらを応用することで、通常の医学的検査では見つからないごく初期のがんやアルツハイマー病、原因不明とされる病気の病因とその効果的な治療法がわかり、早期治療はもちろん治療の質と可能性を高めることができる。歯科領域では、体に害のない補填剤（詰め物）を選定したり、X線でもわかりづらい歯の細菌やウイルスによる感染や、噛み合わせの異常により生じた体の異常を発見できる。また、鍼灸治療では経穴（ツボ）の正確な場所や形、大きさ、深さを特定できる。

オーリングテストには、1) がんの早期発見及び前がん状態の発見、2) 血管の詰ま

り・動脈硬化などの循環器障害 3)アルツハイマー病及び前アルツハイマー病状態の早期発見 4)ウイルス・細菌感染等の病原体特定と治療前後の病原体の量の変化の推定、5)新種のウイルスに対して、ウイルスが不明でも有効な薬剤が決定できるというメリットがある。これらの診断に各種のRCSを用いてスクリーニングを行う。

最新の癌の診断と治療法

まず正常の細胞の組織のテロメア (TTAGGGもしくはCCCTTA) の量を上腕部で調べます。もしこれが110ng或はそれ以下であると体のどこかに必ず癌がある可能性が非常に大きい事を大村が2004年に発見した。正常細胞のテロメアが110ng前後の場合は直ちに癌を疑い、Integrin $\alpha_5\beta_1$ あるいはOncogene C-fos Ab2のRCS 60ngと赤色波長のレーザーポインターを使って癌をnon-invasive(非侵襲的)・迅速にスクリーニングを行い、癌反応が陽性の場合にはX-Axis & Y-Axis Laser Line Scanningで癌の反応の強いX-AxisとY-Axisの交差点を体表上にマークし、調べる。癌の反応の強い交差点の所で、癌のアウトラインを調べ、そこで Integrin $\alpha_5\beta_1$ 、Oncogene C-fos Ab2、水銀、アセチルコリン、ウイルス、テロメア、8-OH-dG、およびFolic Acidなどの量を調べる。これらの物質が体のどの部分にどれだけあるかによって、今後の治療の方針が決定する。また、癌反応陽性部が、どの種類の癌組織スライドと共鳴現象を起こすかを調べる。そして、BDORTで診断をした上で、本当にその場所に癌が見つかるかどうかを、血液検査、X線、MRI、CT、PETといったスタンダード検査で確認する。しかし、癌の初期の状態ではOリングテストで見つかってもスタンダード検査ではみつからない場合が多い。最近、大村は、正常の上腕部ではなかったGhrelin及びInsulin-like Growth Factor I (IGF I) の量が非常に低く、5ng以下になると癌の可能性が高く、2ng以下になるとほとんどの人に癌があることを発見し、癌のスクリーニングに応用している。DHEAも正常の上腕部及び癌反応が陽性の場所で、非常に低くなっていることを発見し、スクリーニングや治療に応用している。

また、1995年、大村は正しい足の三里のつぼ (True St 36) を刺激することで、正常の細胞のテロメアを増加させ、同時に癌部分の異常に増えているテロメアを効果的に減らすことができるということも発見した。癌細胞のテロメアが0に近くなると、($\ll 1\text{yg} = 10^{-24}\text{g}$) 癌細胞は分裂できなくなり、その状態を長く持続する事が出来ると癌が縮小することが多い事もわかり、最近では最悪の脳腫瘍であるAnaplastic Astrocytoma 及び Glioblastoma Multiformや急性白血病にも有効である事を大村が発見している。

さらに、Anti-Aging Effect(アンチエイジング効果)のあるものは、適量を使うとAnti-Cancer Effect (抗ガン効果) があることも発見して、癌及び前癌状態の治療には、以下の方法のいずれか、もしくはコンビネーションで行っている。いずれも、正常なテロメアの量を増やし、癌のテロメアを0近くに減らす作用がある。

- 1) True St 36にプレスニードルを入れ、薬剤を服用後、1日4回ずつ200回刺激する。癌が1カ所の場合は、手の臓器代表領域を薬剤を服用後、15分間、ピンチするようにして刺激してSelective Drug Uptake Enhancement Methodを行ってもよいが、多臓器に転移しているような場合は、数カ所の臓器代表領域を刺激しなければならないので、薬剤を服用する度に、長時間刺激しないとい

けないので、True St 36にプレスニードルを入れて1日4回刺激する方法が大村により開発され、効果的に使われている。

- 2) 最適量のDHEAの投与。個人差があるが適量は各個人により3-12.5mgくらい。正常なテロメアの量を増やし、癌のテロメアを0近くに減らす。Overdoseは癌を促進する。
- 3) 最適量の α -リポ酸 (50mg) とアセチルL-カルニチン (ミトコンドリアの膜を潤滑にし、アセチルコリンを増やす) (75-100mg)
- 4) 最適量のEPA/DHA (EPA180mg+DHA120mgの混合物) +100mgの中国パセリ錠剤+葉酸100 μ g
- 5) 最適量のメラトニン (0.5mg前後)
- 6) 最適量のシラジット
- 7) 最適量のピルビン酸
- 8) (+)の気功紙を患部に当てる
- 9) (+)の Special Solar Energy Stored Paper を患部にあてる
- 10) 上記の方法を組み合わせて、最適の方法を使う。

BDORT で、最適量を見つけ、副作用がないようにする。Selective Drug Uptake Enhancement Method で、薬剤を選択的に病巣に到達させることができるので、効果的な治療ができる。また正常なテロメアの量を増やし、癌のテロメアを0近くに減らす作用（癌細胞が活動できない状態にする）がある治療法を行うことができる。これは、正常なテロメアを増やすので、画期的な Anti-Aging 法になる。

癌を例にあげたが、スクリーニングも BDORT なら、患者に直接触らなくても、長い経験のある人がやると、ガンで 2 分間、心臓病 (L-ホモシス테인や Cardiac Troponin T や I 等を用いる) で 2 分間、アルツハイマー病 (β -Amyloid(1-42)、Tau Protein, アセチルコリン、アルミニウム等) で 10 分ほどで行うこともでき、時間とコストの大幅な削減にもなる。

人間は、年齢を重ねるごとに病気になりやすくなる。80 歳前では心臓病やガンになる人が増え、80 歳を超えたら 20%程の人がアルツハイマー病になっている。人間は健康で長生きし、人の世話にならない様にアクティブな人生を送るのが好ましいので、BDORT を用いればその人生の目標の役に立つ。BDORT がもっと普及すれば、国家の医療費の節約にもなる。

正しいオーリングテストの知識と技術の普及のために、1995 年から認定医制度を設けており、150 時間以上の日本 BDORT 協会主催のセミナー及び医学会や NY での創始者の講習会に参加した医療有資格者が認定試験を受験することができ、認定試験合格者は 52 名 (2005 年末現在)。認定試験合格後も、最新の知識と技術を身につけるように指導している。

セミナー・国際シンポジウム等の問い合わせ先：日本バイ・デジタルオーリングテスト協会
<http://bdort.net> 〒830-0032 福岡県久留米市東町 496 TEL:0942-38-4181 FAX : .0942-37-4131
e-mail : info@bdort.net

「ミラクル・ドラッグとして普及している DHEA (サプリメント) の抗加齢・抗癌効果と加齢・癌化促進効果について」

Yoshiaki Omura, M.D., Sc.D., FACA, FICAE, FAAIM, FRSM

Director of Medical Research, Heart Disease Research Foundation; President, International College of Acupuncture and Electro-Therapeutics; Adjunct Professor, Department of Community and Preventative Medicine, New York Medical College

(Correspondence : Tel: (212) 781-6262; Fax: (212) 923-2279; Email: icaet@yahoo.com)

我々は、Anti-Cancer Effect と Anti-Aging Effect を研究しているが、それを測定する一番重要なパラメーターとしてテロメア (TTAGGG) を測定している。上腕部のテロメアをバイ・デジタルオーリングテスト (BDORT) で調べて、110ng 以下の時は、癌の可能性が高いので、すぐに癌のスクリーニングを行っている。癌もしくは、前癌状態の時は、true ST.36 にプレス・ニードルを入れて刺激する、あるいは、ミラクル・ドラッグとして普及しているサプリメントの DHEA の最適量を BDORT で調べて、1 回だけ投与すると、正常のテロメアの量を増やして、癌のテロメアの量を 0 近くまで低くして、癌細胞が活動できない状態にする Anti-Cancer Effect と Anti-Aging Effect (抗加齢効果) のある理想的な治療ができる。

DHEA のサプリメントについては、文献によると、① 体脂肪の燃焼効果 ② コレステロール値の若干の改善 ③ 痛みの減少 ④ Anti-Aging Effect ⑤ 筋肉増強効果 ⑥ 身体能力を高める ⑦ 記憶力の改善 (アルツハイマー病の人の脳機能を改善する) ⑧ Anti-Osteoporosis Effect と言われていたり、一方では前立腺癌や乳癌の増殖を刺激するという報告もある。

我々は、DHEA について研究を進めていくにあたり、DHEA について抗加齢もしくは若返り効果があるという報告は、DHEA を最適量もしくは、安全な量で服用した場合であり、癌を促進させるとか、好ましくない報告をしているのは DHEA のオーバー・ドーズ (過剰摂取) によるものであることに気づいた。BDORT で調べた正常のテロメアを最大の量に増やす効果のある最適量の DHEA は、個人差があるが、3-12.5mg である。しかし、通常は 25mg の錠剤 (まれに 10mg のカプセル) が市販されているので、一般には、25-50 mg 毎日服用するようにすすめられていたが、我々の研究では 10mg が最適量の人の場合は、25mg では、すでに過剰摂取で中毒量ということになってしまう。また、ある人達は、2 錠 (50mg) 摂取すると、より効果があると勝手に判断して、かえって逆効果を招く。DHEA を毎日、overdose である 25-50mg 摂取している人の正常なテロメアを BDORT で調べると異常に低下し、30ng 以下になり、癌のテロメアが増え、癌の促進作用がある。

逆に最適量の DHEA を一度だけ与えると、正常のテロメアが 30ng 以下に低くなっている人でも、500-530ng くらいまで増え、この 1 回の効果が 4 カ月も続く。癌のテロメアは 1000-1500ng と高い場合が多いが、DHEA の最適量を摂取すると、ほとんどゼロ (1 yg (10^{-24} g) 以下) まで低下する。他の BDORT で使っている癌のパラメーターを調べると以下のようなになる。

癌組織で通常 300ng 以上ある Integrin $\alpha_5 \beta_1$ が同様に 1yg 以下にまで低下する。Oncogene C-fos Ab2 も同様に 1yg 以下にまで低下する。BDORT 単位で癌組織に

200mg以上ある水銀も、同様に 1yg以下にまで低下する。Folic acid（葉酸）は、癌組織では通常 1zg (10^{-21} g) 以下と低いですが、通常の組織での量の 40–50ngまで増加する。Acetylcholineは、癌の組織では 1fg (10^{-15} g) あるいは 1ag(10^{-18} g)まで低下しているが、最適量のDHEAで、40 –50 μ gまで増加する。通常の組織でのアセチルコリンは 1000-1500mgだが、癌組織ではかなり低くなっているため、ニューロトランスミッターとしての細胞間コミュニケーションが失われている。最適量のDHEAでアセチルコリンはかなり増大するが、正常なレベルまでは回復しない唯一のものである。癌細胞ではテロメアが 1yg以下にまで低下するので、癌細胞は分裂できなくなる。これが、癌の成長をコントロールできる簡単な方法である。

最初は、患者は毎日 1-2 回最適量の DHEA を服用する必要があると考えたが、数人の患者の経過をフォローアップするうちに、上記のすべての抗癌効果が最適量の DHEA をたった 1 回服用するだけで 1 カ月以上、持続することがわかった。多くの患者では、1 回の DHEA を飲んだ効果が 4 カ月以上持続した。

最新の研究では、毎日、DHEA を服用すると、かえって癌を促進する作用があることがわかった。DHEA を服用するにあたり、DHEA の最適量を見つけると同時に、他の薬剤との薬剤相互作用がないかを確認する。私のコースをとっている医師には、週に 1-2 度は患者の癌のテロメアが 1yg 以下の実質ゼロ状態であり、正常なテロメアが理想的に 500ng 以上になるように、患者をチェックしてフォローアップするように指導している。

DHEA には、さらに疼痛を抑える効果及び循環障害を除く作用があることも、BDORT でわかっており、疼痛に関しては異常に増えている Substance P、循環障害は、異常に増えている Thromboxane B2 が著しく減少するため、痛みが 10 分以内に減少するか、なくなる事が多い。

BDORT で最適量及び副作用や薬剤相互作用を調べることで、DHEA で理想的な Anti-Cancer Effect と Anti-Aging Effect を得ることができる。

通常市販されている量が中毒量かどうかの判断は、BDORT でないと難しい場合が多いので、日本 BDORT 協会の正規のセミナーに参加したり、医学会に参加して正しくオーリングテストを学ばれることを希望します。

セミナー・国際シンポジウム等の問い合わせ先：日本バイ・デジタルオーリングテスト協会
<http://bdort.net> 〒830-0032 福岡県久留米市東町 496 TEL:0942-38-4181 FAX : .0942-37-4131
e-mail : info@bdort.net